

## おわりに

秋田県生涯学習ビジョンの実現に向け、「学んだ成果を行動に結びつける」気運の醸成と環境づくりを目指し、公民館の実態調査と実践研究という二つの視点から今年度の調査研究を行ってきた。

公民館に対するアンケート調査では、昨年度の調査研究よりも一歩踏み込んだ実態を明らかにすることができた。例えば、学習の成果を生かすことにつながる公民館の講座や取組の有無について、具体的な分野を挙げて選択してもらったところ、昨年度とはやや異なる様相が見えてきた。昨年度は、意識して取り組んでいる公民館の割合が3割程度にとどまっていたが、今年度の調査では、分野によっては5割を超えて実施されている講座や取組もあることが分かった。生涯学習の振興と社会教育の推進を図るといふ公民館の役割を積極的に果たしている事例が多数あることも分かった。一方で、講座や取組分野に大きな偏りがあることは、改善を図るべき課題として捉える必要がある。行政組織の再編や予算・人員の削減等で公民館の置かれている環境は厳しいものとなっているが、その中で公民館が存在意義を発揮するためにも、関係職員自らが他の公民館の事例や姿勢から学び、当該機関の運営に生かすことでその機能を維持し、さらに向上させていくことを期待したい。

公民館利用者に対するアンケート調査では、このような取組を推進していくための貴重な情報を得ることができた。学習の成果を「地域課題の解決や活性化に向けた活動」「ボランティア」「子どもや学校の手助けになる活動」などに生かしたい、あるいはそのような活動が必要だと捉えている利用者の割合は5割を超えていた。このことは、地域に学習のニーズがあり、地域を担う人材が潜在的に多くいることを示している。このことに着目することが、行政と地域住民との「協働」による地域の生涯学習・社会教育の充実や発展への契機となるであろう。

実践研究として取り組んだ「行動人連携学習プログラム～堀回再生プロジェクト～」は、地域住民が公民館や当センターの機能を活用し、人材育成と地域活性化を図る学習や事業を創出していく事例として提示できる内容となった。学びが行動を生み、行動することによって学び、また新たな学びや行動へ発展するという「知と行動の循環」が確認できた。

行動人の広報活動の成果も見え始めている。ウェブサイトによる行動人紹介累計が3万人を超え、本年度の数値目標は達成できた。この3万人の達成時期に合わせ広報活動を調整し、戦略的な広報を工夫した結果、ウェブサイト閲覧者が飛躍的に伸びた。

今年度の調査研究では、文部科学省の委託事業となったことで、一歩踏み込んだ実践ができ、また進展があった。得られた成果や課題は、次年度の当センター主催生涯学習・社会教育関係者研修や実践講座等で提示したり、内容の工夫に生かしたりすることで、さらなる啓発へとつなげることができるであろう。この実践研究は、来年度も継続し、さらに拡充を図る予定である。

最後に、本年度の調査研究事業に協力いただいた各市町村教育委員会や公民館関係職員、堀回地区コミュニティ、羽後町教育委員会等関係各位に感謝申し上げたい。資料編には、お寄せいただいた全事例を掲載した。参考になる実践例が数多くあり、当該公民館の取り組む姿勢が伺える点も興味深い。是非、本報告書で当該施設の取組状況はどのようなものであるのか、課題は何か、学ぶべき事例はないか、というような視点でご覧いただき、ご活用願いたい。